

長崎 明さん(前理事長)を

偲んで

—平和と民主主義—

学問と教育を育てた生涯



小林 昭 三

長崎前理事長は、平成25年9月22日、多くの皆様
の心に、平和と民主主義・命とくらし・学問と教育を
守り育てる大きな勇気を与え、未来への希望の灯を明
るくともし、ほのぼのとした温かい思い出を沢山残さ
れて、89歳の生涯を閉じられました。

長崎明先生は、1966年に岩手大学から新潟大学

農学部部に赴任されました。その後、僅か3年の間に、
農学部長を経て、46歳の若さで新潟大学学長に選出さ
れました。それは、当時の新潟大学における最も困難
な大学紛争の時期でした。特に、1969年3月には、
独断的の大学運営により総退陣を余儀なくされた当時の
大学執行部に替わって、大学の民主的な再建を託され
て、学長事務取扱いに就任されました。同年10月には
第6代新潟大学長に選出され、新潟大学の全構成員に
よる大学の自治・民主的運営という原則を確立し、こ
れに基づく新潟大学の抜本的な改革と民主的な大学再
建に邁進されました。特に、大学の全構成員による自
治の確立・全構成員の英知を結集する新潟大学再建会
議の設立等により、新潟大学の統合整備と民主的の大学
運営を実現された功績と教訓は、多くの皆様の心に深
く刻まれてきております。

新潟県民による県民のための県民の県政を実現すべ
く、新潟県知事選挙でのご奮闘等々、社会進歩と市民
運動の先達としての輝かしいご貢献が蘇ります。

そうした大学運営や市民運動での経験を生かされて、
新潟県の教育現場における様々な取り組みを集大成さ
せる「本研究所の創立」にご貢献されました。

1983年10月には、新潟の多くの仲間と共に「に

いがた県民教育研究所を設立する呼びかけ」のもと、創設に向けての様々な活動を展開され、設立の中心的な役割を担われました。そして、1984年12月に「いがた県民教育研究所の設立総会」開催への貴重なご貢献を継続され本研究所以の創設に至りました。

その創設以来の代表としていがた県民教育研究所の様々な取り組みと活動を通じて、新潟県の教育状況の改善とその民主的な発展のためにご尽力され、多大なご活躍をされました。そして、3人の副理事長(坂東克彦氏・故八木三男氏・故木村隆利氏 等と共に、4半世紀(25年)に渡つて、いがた県民教育研究所を育て発展させてこられました。

2008年度から、私は、長崎明理事長の後継理事長となりましたが、その前後からこの度に至るまで、創設時以来の最も主要なかけがえのない貢献者である、長崎明前理事長、八木三男前副理事長(所長)、木村隆利前副理事長の、お三人をこのように相次いで失う痛恨極まりないめぐりあわせとなりました。

長崎明先生とご一緒した取り組みとしては、特に、日本列島改造計画の最盛時における、聖籠町地域における、当時の学校の児童生徒をめぐる急激な教育環境の破壊に関連する調査活動を思い起こします。

長崎先生とご一緒して、何度も聖籠町地域に足を運んでは、その教育環境の急激な変化を入念に調査したことを、昨日のことのように思い起こしております。

それは、当時の無謀で過激・過剰な地域開発の展開とその大失敗の中で、児童生徒の教育環境の変化・子ども達の荒れ・不登校・等の関連を立ち入って調査したものでした。その際にも、終始目にしたまことにお優しい長崎先生の素顔と柔らかなまなざしが、私達の心の目に深く焼き付いて、鮮やかに甦つてまいります。

そのようにして、教育条件改善のためには、いかなる労苦をもちとわずにご奮闘くだされ、その生涯にわたつて幾多の困難を乗り越えながら、長崎先生は私達への目標や手本となる「教育研究の発展、平和と人権、命とくらしを守り社会発展をもたらす諸活動」等を、豊富に蓄積されてこられました。その89歳のご生涯をついに閉じられてしまいました。

長崎先生には、私どもは長らくご面倒をおかけし、様々なお世話になってまいりましたが、これまでのそうした万感の想いを込めて、輝かしいご業績を偲びつつ、心からの哀悼の意を表させていただきます。

長崎明先生、どうぞ安らかに眠りください。

こばやし あきぞう・いがた県民教育研究所理事長